

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2024年 6月 25日

名古屋市長 様

提出者

住 所 名古屋市港区竜宮町10番地

氏 名 大同特殊鋼株式会社 築地テクノセンター

センター長 酒井 英治

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 052-691-5181

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大同特殊鋼株式会社 築地テクノセンター
事業場の所在地	愛知県名古屋市港区竜宮町10番地
計画期間	2024年4月1日 ~ 2025年3月31日

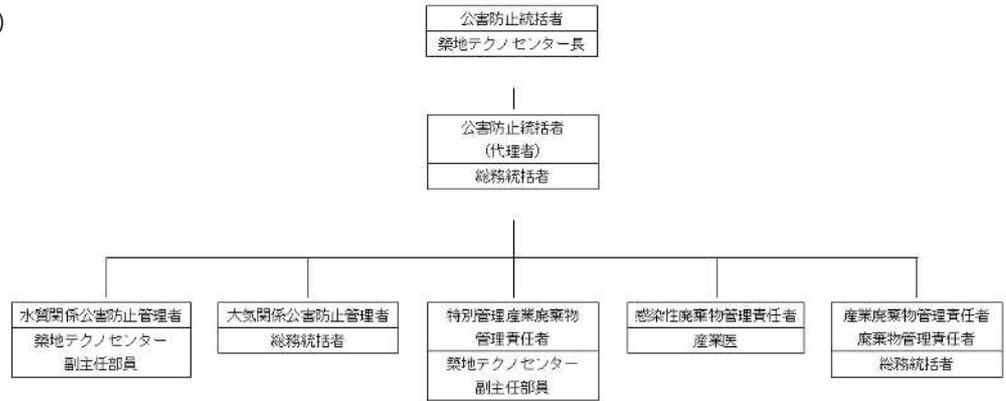
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	22:鉄鋼業
② 事業の規模	売上: 10,152 百万円
③ 従業員数	101人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・汚泥→最終処分業者に委託して埋立処分 →中間処理業者に委託して混錬造粒・造粒固化後、再資源化→中間処理業者に委託して焼却後、埋立処分・廃油→中間処理業者に委託して油水分離後、資源化・廃酸→中間処理業者に委託して中和処理後、埋立処分・廃アルカリ→中間処理業者に委託して中和処理後、埋立処分・廃プラスチック→中間処理業者に委託して破碎後、資源化・木くず→中間処理業者に委託して、破碎後、資源化・ガラス・陶磁器くず→中間処理業者に委託して破碎後、埋立処分・鋳さい→最終処分業者に委託して埋立処分

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表の通り	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・金属くずのリサイクル化 ・脱水設備稼働による排水処理場汚泥の排出量低減 ・廃プラスチック類（フレコン、プラスチック容器）の再利用 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表の通り	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・金属くずのリサイクル化（継続） ・脱水設備の稼働率UPによる排水処理場汚泥の排出量低減 ・廃プラスチック類（フレコン、プラスチック容器）の再利用 		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物は全て種類毎に分別し、保管している。 ・工事で発生するものの分別と、工事施工業者引き取りを徹底させている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・工事で発生するものの分別と、工事施工業者引き取りを徹底させる。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	1.3t	t
	(これまでに実施した取組) ・廃プラスチック類（フレコン、プラスチック容器）の再利用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	3t	t
	(今後実施する予定の取組) ・廃プラスチック類（フレコン、プラスチック容器）の再利用（継続）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	271.647t	t
(これまでに実施した取組) 排水処理場 脱水設備の稼働率UPによる排水処理汚泥の削減			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	270t	t
(今後実施する予定の取組) 排水処理場 脱水設備の稼働率UPによる排水処理汚泥の削減（継続）			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋処分に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		実績なし
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		予定なし
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表による	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・産廃管理システム（電子マニフェスト）導入 契約業者 100%電子化 ・委託先業者の定期的な実地確認（1回/年） 			

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表による	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	提出者	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・新規契約時に優良認定業者を優先して選定。 ・委託先業者の定期的な実地確認(1回/年)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

